

# 社会貢献ファンド（適格機関投資家専用）

ありがとう投信  
Ariгато Asset Management Inc

※弊社が組入れているファンドの中で、マーケットコメント等の提供があるものについて、直近の内容を掲載しております。

運用:朝日ライフ アセットマネジメント株式会社 <http://www.alamco.co.jp/>

基準日:2010年6月30日

マザーファンド株式組入上位5銘柄

|   | 銘柄           | コード  | 業種    | 構成比率 |
|---|--------------|------|-------|------|
| 1 | 堀場製作所        | 6856 | 電気機器  | 3.5% |
| 2 | アシックス        | 7936 | その他製品 | 3.3% |
| 3 | マキタ          | 6586 | 機械    | 2.9% |
| 4 | 高砂熱学工業       | 1969 | 建設業   | 2.9% |
| 5 | DOWAホールディングス | 5714 | 非鉄金属  | 2.9% |

※ 構成比は、現物株式ポートフォリオに占める比率です。

## <運用概況>

### ◆市場動向

6月の国内株式市場は、月初めは欧州財政問題の広がりに対する懸念などを背景に不安定な動きが続きましたが、中旬にかけては米国や中国での景気拡大期待が高まったこと、外国為替相場の安定、さらに中国政府による人民元相場の弾力化に恩恵を受ける日本企業の業績への期待感などが加わり、堅調に推移しました。しかし下旬にかけては世界景気の減速懸念が広がり、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、下落して月間の取引を終了しました。

### ◆運用方針

株式市場では短期的には、好材料や悪材料に株価が敏感に反応しますが、中長期的には本質的な企業価値を織り込んで推移していくものです。そのため下落相場では多くの銘柄が同じように下げても、マーケットが底打ちした後は、将来性の高い銘柄から先に立ち直っていくと私たちは考えています。

現在の世界を大局的に観れば、米国一極集中の時代から政治や経済の中心が同時に複数存在する多極化の時代に入っていると言えるでしょう。中国などの新興国の台頭は、企業にとって成長機会であると同時に、各国の技術水準も高くなることで、競争環境もより一層厳しくなることを意味しています。そのため私たちは投資対象企業について、今後力強い成長が期待できる地域で、それぞれの会社が持つ独自の強みを発揮することで確固たる事業基盤を築き上げた企業を選別していくことが重要であると考えています。

### ◆投資行動

過去に株式市場の上昇と下降を何度も経験してきた私たちにとって、相場の景色はいつでも同じ様に見えています。それは堅調な相場のおきも、また反対に軟調な相場のおきも、そこでは既に次の相場展開が始まっているということです。そのため私たちは、相場の下落局面では大胆に投資行動をとり、上昇局面では株価を追いかけることなく、割高な株価水準に達した銘柄の一部を売却し、次

このレポートはありがとうファンドの運用状況等を開示するための情報提供を目的として、ありがとう投信株式会社が作成したレポートです。信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。投資信託の取得を希望される方は必ず目論見書の内容をご確認の上ご自身の判断でお申込ください。

の投資のための準備を始めて参りました。私たちは現在、先行き不透明な経済環境の中でも、将来の収益性が維持向上していくと考えられる素晴らしい銘柄を発掘し、悲観相場に株価が本来の価値を大幅に下回る水準で、バーゲン・ハンティングする機会を待っています。

#### ◆運用成果と寄与銘柄

今月の当ファンドの基準価額は3.0%の下落となりました。保有銘柄のうち、ナブテスコ、ハーモニック・ドライブ・システムズ、アサヒホールディングスなどの株価上昇がプラスに寄与しておりますが、トクヤマ、住友金属工業、DOWAホールディングスなどの株価下落がマイナス寄与となりました。

#### ◆今後の運用方針

2010年も一年の半分が過ぎました。今年前半の株式市場では、世界景気の回復と企業業績改善への期待が高まる一方で、ギリシャを始めとする欧州の財政や金融システムへの不安、米国での金融規制強化、中国での金融引締め政策などを背景に、上下に大きく変動する相場展開となりました。そうした中、私たちは企業調査をもとに、将来の収益性が維持向上していくと考える価値の高い銘柄について、多くの投資家の落胆、悲観、恐怖、または期待、楽観、熱狂といった感情によって増幅される相場のうねりを利用して、中長期スパンでの投資を行って参りました。経済の先行きは依然として不透明であり、株式市場も不安定な状態が続くと考えられますが、だからと言って企業の本質的価値は大きく変動するものではありません。年後半も私たちはこれまでと同様の運用スタイルで信託財産の成長を図って参ります。

以上